

令和7年度

グリーンスローモビリティ実証実験 北浦和・針ヶ谷地区（東側）

第1回ワークショップ

日時：令和7年7月1日（火）13時00分～

場所：針ヶ谷公民館

次 第

1. 開会挨拶
2. 実証実験の主旨・目的について 資料1
3. 本日のワークショップについて 資料2
  - 〔 ワークショップの進め方について説明
  - グループワーク① 各地区の移動ニーズに関する意見交換
  - グループワーク② 運行するルートや時間帯に関する意見交換
4. 今後の予定
5. 閉会挨拶

---

(配布資料)

次第

名札

資料1 実証実験の主旨・目的

資料2 本日のワークショップについて

令和7年度 グリーンスローモビリティ実証実験  
北浦和・針ヶ谷地区（東側）  
第1回ワークショップ

**「実証実験の主旨・目的」**

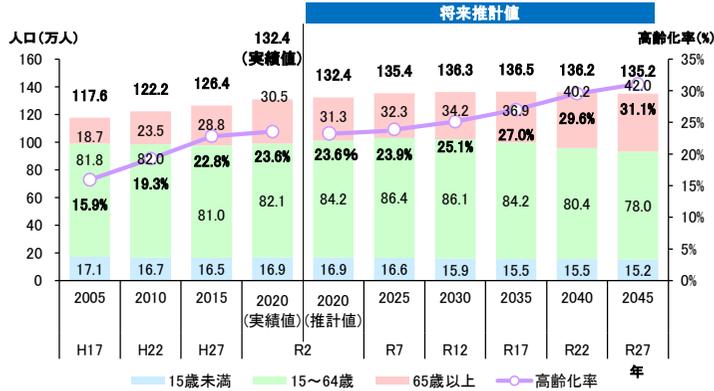
令和7年7月1日

さいたま市都市局 交通政策課

# (1) さいたま市を取り巻く移動の現状と課題

## ●人口の推移

- 人口は依然として増加傾向、高齢化率は上昇傾向にあり、2045年に30%を超え、交通弱者の増加等を予想

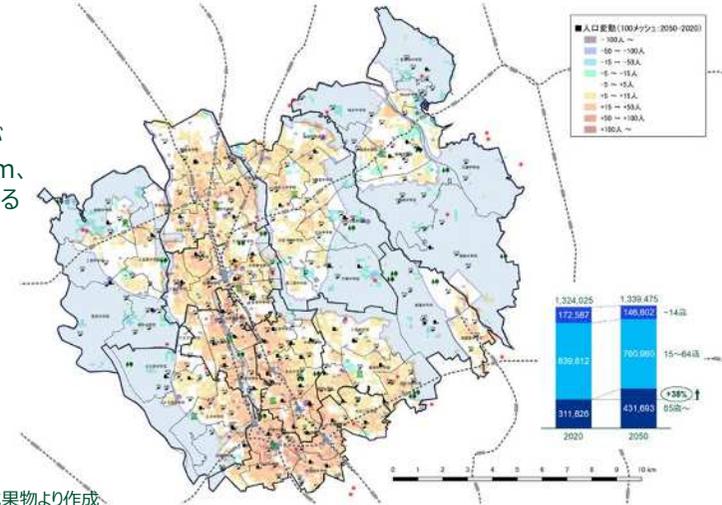


資料：S55~R2年人口：国勢調査 R7以降推計人口；日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

## ●2020-2050年の差分予測（65歳以上の高齢者）

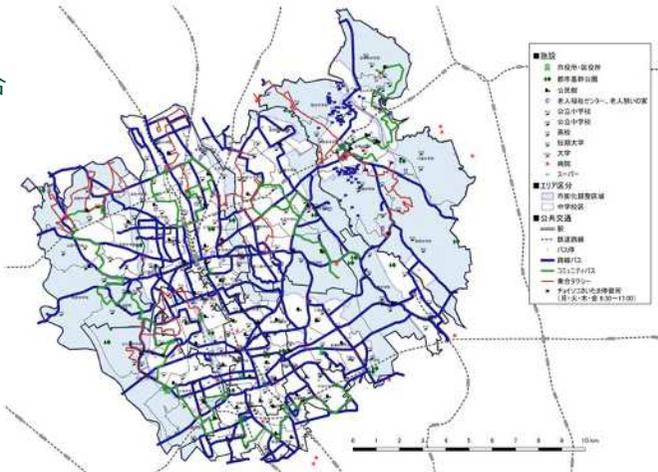
- 2050年、高齢者が大きく減少しているエリアはなく、全体として増加傾向

⇒基本的にどの地域でも高齢者が多い状況になり、鉄道駅1000m、バス停300mで生活の質を保てるかが課題



## ●さいたま市における公共交通ネットワークの状況

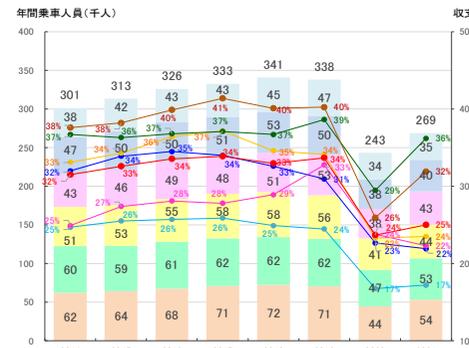
- 市内には南北方向の鉄道網、東西方向の鉄道網に加えて、路線バス、コミュニティバス、乗合タクシーが整備されている（実証運行含む）



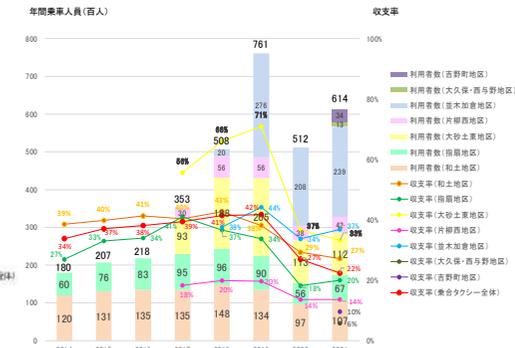
## ●さいたま市における公共交通ネットワークの状況

- コミュニティバス・乗合タクシーの多くは収支率の目標（収支率40%以上）を達成していない状況

### (コミュニティバス)



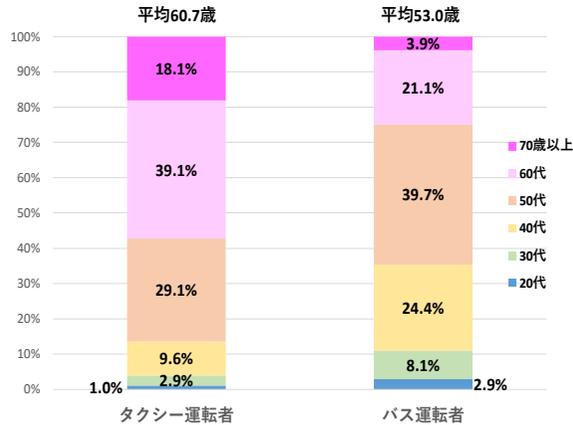
### (乗合タクシー)



# (1) さいたま市を取り巻く移動の現状と課題

## ●タクシー・営業用バス運転者の年齢構成 (全国)

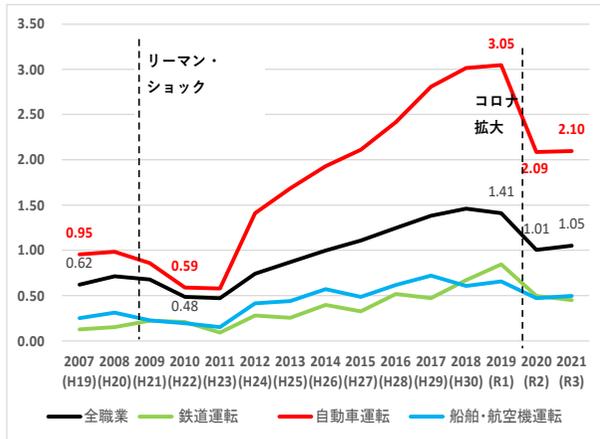
- タクシー運転者は60代以上が過半数、50代以上が8割以上
- バス運転者は60代以上が1/4、50代以上が6割以上



資料：賃金構造基本統計調査（厚生労働省）

## ●職業別有効求人倍率の推移 (全国)

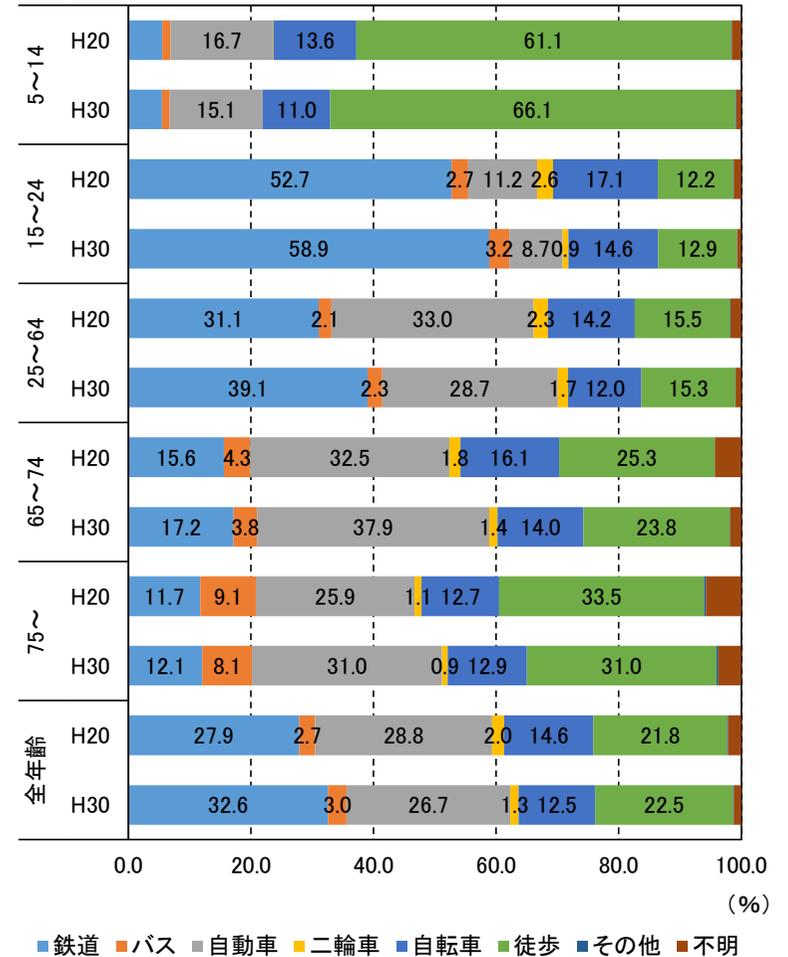
- 自動車運転の職業有効求人倍率は、他の産業、全職業平均と比較しても上昇率が高い



資料：職業安定業務統計

## ●年齢別交通手段分担率の変化

- 15歳～64歳で鉄道とバス分担率が上昇、高齢者は自動車の分担率が上昇し、バスの分担率は低下傾向にある

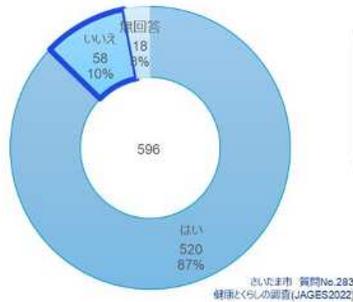


## (2) 高齢者の移動と生活の現状

### ● 日常生活での困りごと－70歳以上

- 生活に必要な物やサービスを必要な時に購入できると回答した方は87%
- 上記の設定で「いいえ」と回答した人の理由として最も多かった回答が、「移動手段の問題」であった

自分にとって生活に必要な物やサービス（例：衣服、食事、住宅、医療・介護サービス、自分が快適に暮らすために必要な物品など）を、必要な時に購入することができますか。



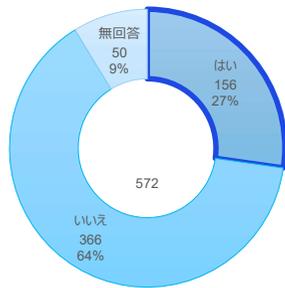
「いいえ」と回答した方におたずねします。その理由として、あてはまるものすべてに○をつけてください。



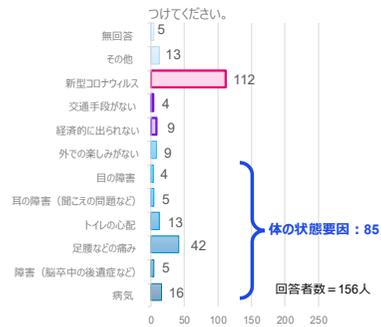
### ● 高齢者の外出控え－70歳以上

- 外出ガマンの理由として、「経済的に出られない」と回答した方の割合は少なく、健康状態を要因とする割合は比較的高い

外出を控えていますか。



「はい」と答えた方にお聞きします。外出を控えている理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

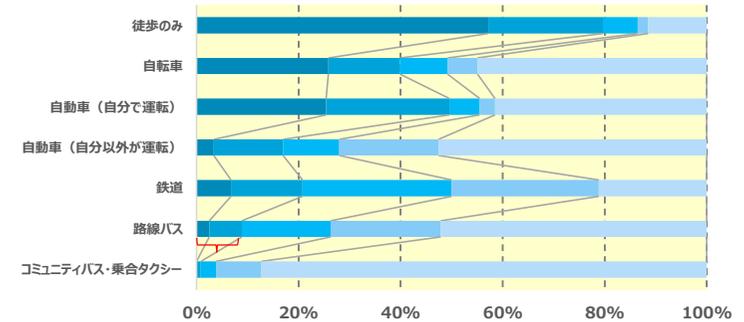


資料：さいたま市 健康とくらしの調査(JAGES2022)

### ● 移動手段別の利用頻度－70歳以上

- 移動手段の利用頻度としては徒歩・自転車・自動車が多く、週1日以上路線バス利用者は約9%

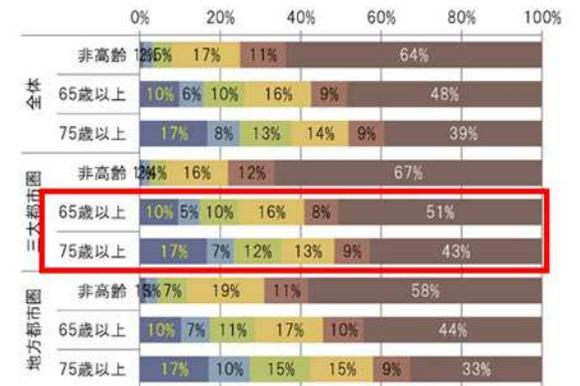
■ 1週間に3日以上 ■ 1週間に1～2日 ■ 1ヶ月に1～2日 ■ 1年に数回 ■ (ほとんど) 利用しない



資料：インターネットアンケート調査（2023）

### ● 高齢者／非高齢者別にみた無理なく休まずに歩ける距離

- 65歳以上の高齢者の15%の方は、無理なく休まず歩ける距離が300m以内
- 75歳以上の方では、無理なく休まずに歩ける距離が300m以内という方が24%。



■ 100mまで ■ 300mまで ■ 500mまで ■ 1kmまで ■ 1.5kmまで ■ 1.5km以上

### (3) さいたま市の現状と課題（まとめ）

---

#### ■ 前述スライドのまとめ

- 今後、さいたま市の高齢化率は高くなることが想定され、**移動手段の確保はますます重要に**
- さいたま市では、鉄道駅1km圏、バス停300m圏を目安に、公共交通サービスの確保に向け取り組んでいるが、**利用者数や収支率の課題**に加え、高齢者が増加するなか、（上記の目安で）**市民の生活の質が保てるかも課題**
- 一方で、バスやタクシー等の公共交通サービスを担う**ドライバーの確保は年々困難に**
- 増加する高齢者が日常生活を送る上で、**移動手段の問題解決の優先度は高いと想定**
- 歩行能力の低い方でも安心して利用できる**身近な移動手段となる交通モードの確保**が高齢者の方々が**健康的に日常生活を送れる「カギ」**になると想定

# (4) グリーンスローモビリティの概要・実証実験の目的

## ■ グリーンスローモビリティの概要

グリーンスローモビリティは**時速20km未満**で**公道を走行**できる**電動車**を活用した小さな移動サービス・車両の総称

### 1 Green

電動車を活用した環境に優しいエコな移動サービス

### 2 Slow

景色を楽しむ、生活道路に向く、重大事故発生を抑制

### 3 その他

同じ定員の車両と比べて小型、開放感がある、乗降しやすい等



#### 【従来の公共交通】

- ・はやく
- ・時間通りに
- ・遠くまで



#### 【グリーンスローモビリティ】

- ・ゆっくりと
- ・余裕をもって
- ・近くまで

## <グリーンスローモビリティ導入効果例>



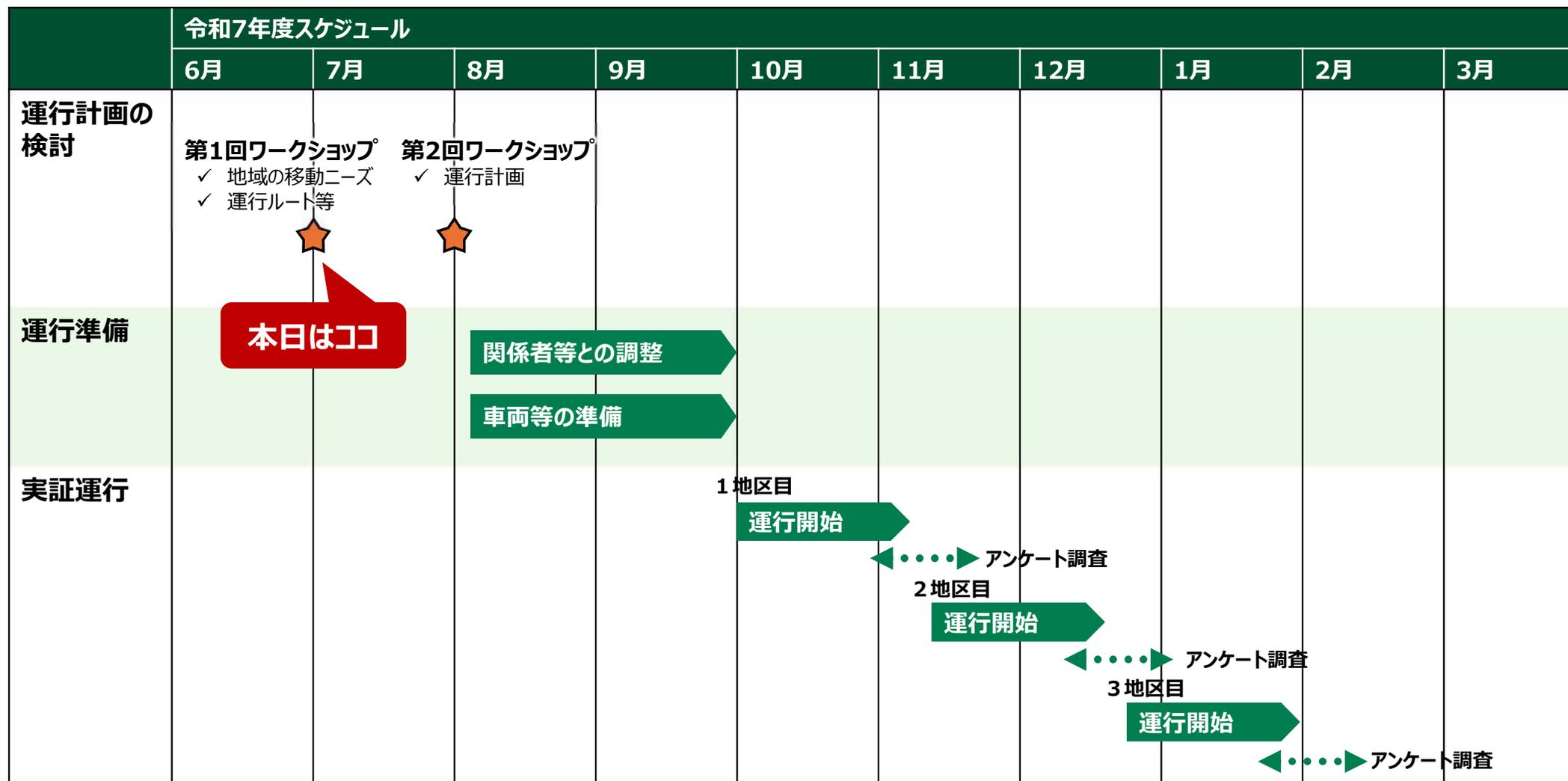
資料：ヤマハ発動機ホームページ

## <目的>

**地域が支える「グリーンスローモビリティ」の活用可能性や持続性等を確認・検証する**

※今年度の実証実験を踏まえて、次年度以降の対応を検証予定のため今後変更の可能性があります

## (5) 今年度の実証実験スケジュールイメージ



令和7年度 グリーンスローモビリティ実証実験  
北浦和・針ヶ谷地区（東側）  
第1回ワークショップ

# 「本日のワークショップについて」

令和7年7月1日  
さいたま市都市局 交通政策課

## (1) ワークショップとは？

---

ワークショップとは、**参加者の主体性を重視**した体験型の学習講座です。本来は「作業場」「仕事場」を意味する言葉ですが、そこから転じて現在では、**参加者が共同で研究や創作を行うグループ学習や研究集会**などを指すようになりました。学校のオリエンテーションや地域おこしのイベント、企業の研修や集客イベントなどに用いられています。

- 当事者意識や達成感が得られやすい
- 体験を通して知識を深く理解できる
- さまざまな意見や価値観に触れられる



## (2) 本日議論していただくテーマ

---

### ① 各地区における移動ニーズ

グリーンスローモビリティの運行計画を考える上で、目的地や立ち寄りポイントとして、身近な地域で、普段の生活で「よく行くところ」や、「行きたいけど行きにくいところ」について、グループ内のみなさんで意見交換・議論をしてみましょう

### ② 運行するルートや運行時間帯など

今回のグリーンスローモビリティ実証実験において、「通ってほしいところ」や「通らない方がよいところ」などの**運行ルート**に係るご意見、「利用したい時間帯」や「目的地に行きたい時間帯」などの**運行ダイヤ**に係るご意見についてグループ内のみなさんで意見交換・議論をしてみましょう

### (3) 本日のスケジュールについて

タイムテーブル	プログラム
13:00-13:05	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 開会のあいさつ</li><li>・ 事務局スタッフの紹介</li></ul>
13:05-13:15	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今回の実証実験の主旨・目的 の説明</li></ul>
13:15-13:25	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本日のワークショップについて</li></ul>
13:25- (10分程度)	自己紹介等
13:35- (40分程度)	グループワーク①「各地区の移動ニーズ」について <ul style="list-style-type: none"><li>・ 各自の意見整理</li><li>・ 意見発表、とりまとめ</li></ul>
14:15- (40分程度)	グループワーク②「運行するルートや時間帯等」について <ul style="list-style-type: none"><li>・ 各自の意見整理</li><li>・ 意見発表、とりまとめ</li></ul>
14:55-	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今後の予定</li><li>・ 閉会のあいさつ</li></ul>

## (4) グループワークの進め方

---

### ①ご自分の意見を考えます → 付箋紙に記入

- それぞれのテーマについて、まずご自分の意見を整理する時間を設けます
- ご自身のお考えやご意見について、準備した付箋紙に記入してください（付箋 1 枚に 1 つのご意見）
- ご意見は皆さんにわかりやすいよう、「大きく」・「丁寧に」ご記入ください

### ②ご自分の意見を発表します → 記入した付箋紙を模造紙へ

- スタッフの進行に従って、順番にご自身のご意見を発表していただきます
- 記入した付箋紙をテーブル上の模造紙に貼りながら、考えたご意見を発表していきます

### ③グループ内で振り返ります

- 参加者のみなさんの意見発表が一通り終わったら、スタッフが意見等の振り返りを行います
- スタッフの進行に沿って、皆さんの意見を整理・まとめを行います

## (5) グループワークを行う上で注意していただきたい事項

---

### ①意見発表は大きな声で

- 意見を発表する際は、皆さんに聞こえるよう、気持ち大きめで話しましょう

### ②発表時間を守りましょう

- 参加している皆さんが意見を発表できるよう、時間を守りましょう

### ③自分と違う意見にも耳を傾けてみましょう

- 自分とは違う考え方や意見を知ることが出来るのもワークショップの醍醐味です
- 考えやその背景を知ることによって、「なるほど」といった新しい発見に繋がるかもしれません

### ④思ったことや感じたことは積極的に発言しよう

- 思うことや感じるものがあれば、積極的に意見を共有しましょう
- 共有する際は、他の人の発表を遮らないよう、タイミングは注意しましょう

### ⑤楽しみましょう

- ワークショップ（皆さんとの意見交換）を楽しみましょう

## (6) グリーンスローモビリティの特徴

グリーンスローモビリティ（略してグリスロ）は**時速20km未満で公道を走ることができる**  
**電動車を活用した小さな移動サービスであり、その車両も含めた総称です**

### 1 Green

電動車を活用した環境に優しいエコな移動サービス

### 2 Slow

景色を楽しむ、生活道路に向く、重大事故発生を抑制

### 3 その他

同じ定員の車両と比べて小型、開放感がある、乗降しやすい等

【今回の実証実験で使用するグリスロ（ヤマハ社製7人乗り）】



#### 【従来の公共交通】

- ・はやく
- ・時間通りに
- ・遠くまで



#### 【グリーンスローモビリティ】

- ・ゆっくりと
- ・余裕をもって
- ・近くまで

資料：ヤマハ発動機ホームページ

## (6) グリーンスローモビリティの特徴

小型なので狭い道でもスイスイ



電動車なので坂道も楽々



## (6) グリーンスローモビリティの特徴

低速なので幹線道路を長い区間運行するのは苦手（渋滞や強引な追い越しを誘発）



## (6) グリーンスローモビリティの特徴

低床・オープン・ルーフ高で楽々と乗り降り



幹線道路等を横断する際は信号交差点で



## (6) グリーンスローモビリティの特徴

---

例えば、1周3kmの運行ルートを設定した場合、

**1日の運行可能便数** …… **午前：4便、午後：4便（合計8便程度）**

※10-12,13-15時の運行の場合、30分に1便を想定

**1日で利用できる人数** …… **40人程度（1便に5人乗車した場合）**

※途中での乗り降りは考慮しない

**目的地までの所要時間** …… **最大で約30分程度**

※目的地がルート終点付近の場合

※途中の乗り降り等を考慮し、平均時速6kmで算定